

令和5年度第4回長野市健康増進・食育推進審議会
会議録

- 開催日時 令和6年1月25日(木) 午後1時30分から午後3時まで
- 開催場所 長野市ものづくり支援センター5階 産学行交流室
- 出席者 高山会長、板倉委員、小口委員、風間委員、北沢委員、草間委員、久保委員、小林委員、小森委員、小山(清)委員、小山(莉)委員、佐藤委員、諏訪委員、原委員、宮澤委員
- 欠席者 伊藤委員、釜田委員、関口委員、西澤委員
- 事務局出席者 小林保健所長、長澤保健所健康課長ほか
- 傍聴者 なし
- 報道機関 なし

発言者	内容
事務局	1 開会
高山会長 小林保健所長	2 挨拶
事務局	3 議事 (1) ながの健やかプラン21(第二次)(案)に対する市民意見等の募集(パブリックコメント)の実施結果について (2) ながの健やかプラン21(第二次)答申案について
事務局	資料に基づき(1)及び(2)について一括説明 《質疑応答要旨》
委員	答申案は素晴らしいものができた。コラムが多く、市民にとって非常に分かりやすい内容になったのではないかと。 前計画では概要版が出されたが、今計画でも作成する予定はあるか。前計画の概要版はとても使いやすかった。市民に向けてSNS等で情報発信をしていくという話もあったが、予定があれば教えていただきたい。
事務局	概要版は作成することとしている。前計画ではA3二つ折りの見開きだったが、皆様に分かりやすいよう、少しページ数を増やして伝えたいものが伝わるような形にしたいと考えている。
委員	これまで前計画も大学の授業等で活用させていただいたが、引き続き活用したいと思うのでよろしくお願いしたい。
委員	資料2の101ページの一番下に学校での取組がある。文章の後半で、「教職員は、児童・生徒一人ひとりのこころの変化に気づき、早期に対応できるよう相談フォームを活用した支援体制づくりに取り組みます」とあるが、これは、教職員が変化に気づき早期に対応できるように、こうした支援体制に取り組んでいく、ということ

発言者	内容
事務局	<p>だと思うので、「教職員は」ではなく「教職員が」の方が良いのではないかと。</p> <p>また、「相談フォームを活用した支援体制づくり」とあるが、何か具体的なものがイメージとしてあれば教えていただきたい。</p> <p>これは「心の教育推進事業」ということで、教育委員会学校教育課で取り組むもので、具体的にはこれ以上のものは私どもでは分かりかねる。</p> <p>文言については、「教職員が」の方が事業の意図に合っていると思うので修正したい。</p>
委員	<p>たくさんの資料を拝見して、ボリュームで入りきらない程の情報が入っていて素晴らしいと思った。</p> <p>3点お聞きしたい。1つ目は資料2の63ページのがんのコラムについて、食生活で「飲食物を熱い状態でとらない」というのは、最近の新しい情報になるのか。私は初めてこれを拝見したので、市民がどのように思うかということで確認したい。</p> <p>2つ目は、98、99ページの年代別自殺率が、男女ともに20歳代が長野市は全国に比べて多いことが記載されている。その理由として次ページのグラフでうつ病が原因として最も多いことが見て取れる。20歳代のこれから結婚して子どもができてという世代に対して、妊産婦や父親、男性への支援をこれからどのようなことをしていくのかが分かると良いと思う。</p> <p>3つ目は、101ページの一番下、これから子どもに対して相談フォームを活用した支援がなされていくと思うが、家庭で子どもの悩みをいつ聞くかとなると、夕飯を食べている時や寝る前になると思う。また、82ページ一番下の市民の取組で「成長のために必要な食べ物を知る」、「よく噛んで食べる」等とあり、これは給食でも育めるとは思うが、やはり家族と一緒に食べないと育めない部分であると思うが、共食についての取組の記載がこの計画にはない。子どもやその親御さんにとって、とても大事な時間だと思うので、それが分かる資料があれば良いと思う。</p>
事務局	<p>がんの予防の食生活については、食道や胃が熱いものによってただれてしまったり刺激になったりしてがんが起こる可能性が高いということで、以前から言われているものである。</p> <p>20歳代の自殺率が全国より高いということについては、第二次の長野市自殺対策行動計画において、20歳代から30歳代の女性に対しての支援という形で重点目標として掲げており、詳細はそちらに掲げている。この計画には細かく触れていないが、同計画も併せて推進していくので、そちらもご確認いただきたい。</p> <p>共食については、前計画では目標として掲げていた。資料2の21ページ取組項目(2)の7で、「朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の回数の増加」として、目標値は週11回以上のところ、令和4年に行った調査の結果は12回で、変化なしということになっている。</p>
事務局	<p>共食は非常に重要なことだと私達も感じている。国の食育推進基本計画等では目標値として入っている。前計画では目標に掲げていたが、実際の市民の皆さんの様子をお聞きすると、共食をして家族と一緒に食べながら色々な話をするのはもちろ</p>

発言者	内容
委員	<p>ん非常に良い場面ではあるが、実際には個々の事情で共食できない家庭が少なからずあり、目標として「共食しましょう」と掲げるのは、当事者としてはしたくてもできないということを是非理解して欲しい、というような話がある。</p> <p>また、共食による良い効果というものも確かにあるが、逆に、ただ一緒に食べていて家族としての心の通い合いというところまで行われているかとなると、そこは我々としても実際にデータとして把握するのも難しく、形式的な共食をしているかどうかということを目標にするのはそぐわないのではないかとということで、今回は入れていない。</p> <p>ただ、もし委員の皆さんで、やはりそうは言っても重要な指標ではないかというご意見があれば、それを踏まえて検討していきたいと思う。</p> <p>コロナの関係で給食は黙食が行われていて、皆で前を向いて会話をしないというのが今も行われている学校もある。そう考えると、やはり家の人、大人がいなければきょうだいと一緒に食べられるのが一番良いと思う。</p> <p>学校で低学年にマナーを一つ一つ教えるというところまで支援ができるかという難しく、それをしっかり身に着けられるのは、やはり家庭でできたら一番良いと思う。ひとり親家庭や仕事でどうしても時間が取れないということもあるかと思うが、一週間に1度、土日だけでも、少しずつ意識できるような支援が市でもできれば良いと思う。こども食堂の取組もあるが、そういう様々な施策を共食ができないという家庭に広げられると良いと思う。</p>
事務局	<p>共食については、ご意見を踏まえて検討したい。</p> <p>自殺死亡率については、ご指摘のとおり全国と比較して、長野市では男女の20歳代と、女性では20歳未満も全国平均より若干高く、問題があると認識している。20歳代の方々の具体的な自殺の原因・動機については、国のデータからは詳細に分析できない形になっており、99、100ページにある自殺の原因について、健康問題が上位ということが書いてあるが、これはあくまでも全年齢を通したものである。恐らく20歳代については、健康というよりは仕事等が原因にあるのではないかと考えている。101ページ以降に市の取組を記載してあるが、ご指摘を踏まえて、若い世代に対する施策を追加する形で修正したい。</p> <p>また、関連して、96ページに自殺対策については市の自殺対策行動計画（第二次）で重点的に取り組むと書いてあるが、この記載方法をもう少し目立つように工夫したい。</p>
委員	<p>共食の話は、やはり様々な形、家庭の形があると思う。努力はしているができないということもあるが、そのあたりを踏まえて市民の取組を期待したいというニュアンスが伝わると良いと思う。</p> <p>自殺について、20歳代と言うと、私自身は大学に勤務しているが、学生が様々な悩みを抱えているけれど相談場所がないというのは、やはりあるということをして学生と面談していても感じている。102ページに取組を追加いただけるということで非常にありがたいことであるし、そういった修正が加わるべきと思う。</p>

発言者	内容
委員	<p>計画全体を通して、当初に比べると非常に見やすくなった。最初は取っ付きづら いと感じていたが、非常に見やすく、一般の方々にも理解いただけるようなもの になった。</p>
委員	<p>計画に掲載された事業に取り組んで携わる人達が、自分達の立場で行っているこ とについての目標をきちんと理解して、それぞれの事業を進めていくということに 繋がって、この計画が活用されるようになれば良いと思う。</p> <p>また、様々な方が見やすく理解しやすく活用しやすい内容を作るにはどうし たら良いのかと、今日の議論を聞いて思った。計画はホームページ等で見られると 思うので、私も自分と同じ環境の人達や周囲の仲間、同業者にも見ていただくよう に進めていかなければならないと思っている。</p>
委員	<p>先ほど、概要版という話があったが、要するに答申案のほかにダイジェスト版も あるという理解をしているが、それをどう活用していくかという話だと思う。</p>
事務局	<p>概要版は5,000部作製する予定である。皆さんにお配りできるので、例えば勉強 会をすとか、皆が集まるところで共有するといった場合にご活用いただければと 思う。イメージとしては、28ページにある計画の全体像をまず見ていただき、自分 が一番どこに関わるのか、何をできるのかというところで、そこからそれぞれの章 を読んでいただくというようなものにしたいと思っている。それぞれの取組の中 で、皆さんに気をつけていただきたいこと、やっていただきたいことを選択して分 かりやすく掲載し、細かい具体的な取組を知りたい時や自分が何をしようかという 時に本冊を詳細に読んでいただくというような形で、それぞれがご理解いただいて 推進していただきたいと考えている。</p>
委員	<p>やはり、計画全てに目を通すのは大変なことだと思う。関係する項目がどこにあ るか分かるとその施策にたどり着けるので、非常にありがたい資料だと思う。</p>
事務局	<p>こういったものは最終的に市民の皆さんに届かないと意味がないということで、 我々もそこは心して進めていきたいと思っている。ただ、この厚い冊子を一人一人 の市民の皆さん全員に見ていただくというのは物理的に不可能なので、計画の構成 で言うと、例えば34ページでは中ほどに「目指す状態」という市全体の目標として 病気の死亡率という表現があり、その下に「市民の取組」として、ここは健診の話 なので、健診や精密検査をしっかり受けてくださいといった内容がある。我々が市 民の皆さんに直接何かを伝えていく際には、この「市民の取組」というところを中 心にして、是非こういった対応をしてほしいということを伝えていくことができ ると考えている。</p> <p>また、35ページで、「関係機関等の取組」として、関係機関等の皆さんがどういっ た対応ができるかということで、右側にそれぞれ保険者、医療機関、事業実施者な ど主体となる団体等が書いてあるので、こういったところを確認して取り組んでい ただければと思う。そして、最後に「市の取組」ということで、市民に直接実践し ていただきたいこと、ネットワークとして関係機関の皆さんにお願いしたいことな</p>

発言者	内容
委員	<p>ど、場面、場面で使い分けながら、できるだけそれがストレートに伝わるように周知等をしていければと思う。</p> <p>1年に1回、進捗状況も確認しながら計画を推進していくので、是非委員の皆さんには、このできあがった冊子と概要版をお手元に置きながら、活動をしていただければとてもありがたいと思っている。</p> <p>資料2の7ページに出生率・死亡率、婚姻率・離婚率があり、出生率・婚姻率が減少して推移していますとあるが、それに対して長野市はこうしていくとか、こういう施策をしているというものがあれば良いと思う。</p> <p>また、低出生体重児が少し増えているように見える。妊婦のBMIが長野市は全国に比べて少し低いという資料があった。理由があるとは思いますが、それについて、こういうようなことをすれば改善できるというものがあれば良いと思う。</p> <p>もう1点、17、18ページに要支援・要介護の状況のグラフがあり、要介護者数があるが、それに対して介護する人がいると思う。家族が介護している、施設に入所しているなど、介護する側の人に対しての支援もとても大事な部分だと思う。98、99ページの年代別自殺死亡率で、60・70歳代が増えているが、介護が原因にもあるのかもしれない。介護する側のメンタルヘルス支援のことも書いてあると丁寧で良いと思う。</p>
事務局	<p>出生率・婚姻率が減少して推移しているということについて、この計画は「健康づくり」という観点で作成している。ご指摘の内容は、例えば「子育て支援」とか「少子化対策」ということになり、それは市では別の計画があるので、ここでは生まれる子どもが減っている中でどう健康づくりを進めていくかという主旨でご覧いただきたい。</p> <p>低出生体重児2,500グラム未満の子どもがグラフでは若干増えているように見えるが、ここについては疫学的な分析が必ずしもされていないので、これが本当に意味のある増加なのか偶然の変動の範囲なのかということもある。これが仮に増えているとして、どういう要因かということまでは分析は難しい。妊婦のBMI等の関係もあるのかもしれないが、出産する医療機関の考え方や父・母になる方々の考え方もあり、必ずしも生物学的な要因だけではない可能性もある。分析はしっかりしていかなければいけないと思うが、現時点では詳細なものはないということでご理解いただければと思う。</p> <p>介護の関係で、確かに介護する側の実情が重要だということだが、こちらについても介護に関する別のプランがあり、そちらで取り組むということでご理解いただきたい。</p> <p>なお、先ほどの自殺死亡率の件で20歳代の話をしたが、高齢者も女性は60歳代が全国を上回っており、こちらは恐らくこころの病気だけでなく身体の病気も関連していると言われている。先ほどの若い人達の対策と同じように、高齢者の対策についても追記して対応したい。</p>
委員	<p>102ページの一番下に人材育成のゲートキーパー養成とあるが、これは来年度から新たな事業として、幅広い層の方達から募集するという事なのか。また、人数</p>

発言者	内容
事務局	<p>的にどのくらいの方が講座を受けてゲートキーパーになられるのか教えていただきたい。</p> <p>ゲートキーパーの養成については、新たな事業ではなく前計画から取り組んでいる。人数は、21ページ取組項目(3)6にあり、直近値が1万6,909人となっている。今回の計画では目標としては掲げず、第二次自殺対策行動計画に設定しており、累計で最終年には2万2,000人としている。</p>
高山会長	<p>本日の意見を踏まえて、答申案は一部修正する形になると思われるが、来週31日に市長への答申が予定されている。修正については、私にご一任いただき、事務局と調整して答申案の確定版を作成するというところで進めさせていただければと思うが、いかがか。</p>
一同	<p>(異議なし)</p>
高山会長	<p>それでは、そのような段取りで進めさせていただきたい。</p>
事務局	<p>4 その他</p>
事務局	<p>5 閉会</p>